

## 行政視察報告書

経済地域委員会 行政視察		令和元年7月24日（水）～7月26日（金）
視察先 及び 調査事項	大分市	大分駅周辺総合整備と中心市街地活性化の取組みについて
	柳川市	西鉄柳川駅周辺整備と中心市街地のまちづくりについて
	富士通(株)九州支社	ICTを活用した鳥獣被害対策について

### 大分市の報告

#### 大分駅周辺総合整備と中心市街地活性化の取組みについて

大分駅周辺地区の課題として、北側市街地は、商業業務、文化等の中枢機能が集積、都市基盤はほぼ完了。当駅は、鉄道により、都市が南北に分断され、市街地の一体的な発展を妨げていました。一方、南側市街地は、駅裏的な印象が強く商業・業務的土地利用は、少なく周辺部からのアクセス性も不十分でした。

100年に一度の大事業ともいわれる「大分駅周辺総合整備事業」。

H18年から区画整理地区内の居住人口が、1.06倍に増加したというというデータも報告されました。主に30才代～40才代の子育て中の家庭が多いのが、特徴です。

中心市街地の人口は大分駅南土地区画整備事業の進捗に合わせて増加し、H17年には3.6万人でしたが、H26年には3.8万人になっています。

ひとつ注目したのは駐車場のタクシーのショットガンシステムです。駅前の広場を有効に使うために、タクシーを近くに待機させておいて、カメラを見ながら移動させて、タイミング良くお客様を乗せるというものです。タクシーを駐車する他の場所が必要になりますが、広場の使用目的が広がるのではないかと思います。

また、H27小売業年間商品販売額は、804億円から900億円に増えています。

駅北地区は商店街や大型店からなる商業地が形成されていますが、この事業に合わせて魅力ある大型集客施設の開業により駅北地区の従業者数商業吸引力の回復が期待されています。平成27年4月に開館した、大分県立美術館では、平成28年3月までに、64万人が来館しました。県立美術館と大分駅を結ぶ動線には、いくつかの商店街があり、メインストリートである中央通りが位置しており、美術館と商店街が連携することで、まちなかの回遊性向上が期待されています。大分市では、今後「おおいた創造ビジョン2024」の実現に向けてランドデザインでは、「見える化」しているそうです。

本市では、JRと提携をして駅をどのようにしてゆくの、関心の高いところですが、美術館、芸術館、あがたの森などの回遊性や商店街とどのように結び付けてゆくの、ま

た、アルプス口側のまちづくりをどのようにしてゆくのかわ、大分駅を参考にしながら、考えていきたいと思いました。

## 柳川市の報告

### 西鉄柳川駅周辺整備と中心市街地のまちづくりについて

今回、どうしても行きたかった視察先の1つでした。現在、村井駅の改築が2022年供用開始で、進められています。地元の皆さんに市から示された駅舎のデザインの1つが、この柳川駅でした。アンケートの結果、このデザインに決まりました。

写真で見た駅舎は、木のぬくもりが伝わり、やさしい光に包まれている風情ある駅舎でした。

実際、西鉄柳川駅周辺に於ける市民・事業者・行政・専門家による景観まちづくりの取り組みをおききする中で、市民みんなが駅周辺のプロジェクトに参加して、ワークショップや検討会議を重ね、柳川らしいまちづくりとはどんなまちか、それぞれの立場で、真剣に議論をして、決めてきた過程が伝わってきました。

特に運営体制・協力の中で、小学校や育成会、父親委員会が協力をして、人と人のふれあいや親子の絆を深めることも大切な取り組みと位置付けていました。例えば、殺風景になりがちな駅のまわりのフェンスを70mにわたって杉のフェンスを作ったり、拾ってきた貴重な石をベンチとして、使ったり、イベントができる広場にしたり、ひとつひとつ本当にみんなで、考えた手作りの感じが伝わってきました。

そもそも柳川は、歴史がある街ですが、海拔が低く、農地・水田がうろこ状に広がっていった街でした。そのため、盛り土をして、農地、水路を作ってゆきました。

川下りや有明海の魚介類も有名です。

これまでは、駅を通過するだけだった場所が、改築後は、電車やバス、タクシー、自動車の乗り降りがスムーズになったのはもちろん、自由通路ができたことで、東口からも駅を利用することができるようになり、様々な用途に使える広場ができ、イベントや音楽会で、賑わっているとのこと。16年かけた駅東部の区画整理事業が完了し、事業が完了した土地には、ホテルや「ゆめモール」が開業したのをはじめ、大小さまざまな商業施設の建築も行われ、マンションの建設や昨年9月の有明海沿岸道路の三橋インターチェンジの開設に伴い佐賀や、大川方面から東口を利用する人が増えているそうです。事業施行前と比べ、見違えるほどの環境となった東側、西側と併せて公共交通や人が集まる広域拠点として、また、商業施設等の機能が集まる都市空間として、期待が集まっているとのこと。残念ながら、夜の明かりが灯っている駅舎は、見られませんでした。今までの取り組みが十分伝わってきた視察となりました。これからの村井駅改築に向けて、せっかくこのデザインに決まったので、できるだけ市民の皆さんの意見が反映できるようにこの視察が活きるような提案ができればと思っています。

## 福岡市の報告

富士通(株)九州支社 ICTを活用した鳥獣被害対策について

(株)富士通鹿児島インフォネットを訪問しました。私たちが訪問した所在地は博多区でした。企業理念として、情報技術をベースに「顧客の価値創出」に貢献し、社会の発展に寄与していく。です。今回は、「鳥獣害対策での業務運用の効率化をサポート」すること、「鳥獣害対策クラウドの紹介」ということで、説明をしていただきました。

お客様のメリットとして、

1. 鳥獣保護情報、わな設置位置の見える化により、住民問合わせや注意喚起に活用できる。
2. 捕獲実績の集計や捕獲活動経費に関する手続きの業務運用の効率化ができる。
3. スマートデバイスの活用やインターネットからのアクセスなど現場で使いやすいICTを実現できる。

機能の概要として、鳥獣捕獲実績の集計、捕獲活動費の手続きなど、鳥獣害対策に関する業務運用の効率化をサポートします。

1. では写真情報をもとに罠の設置位置をマップ上でピン表示をし、ピンをクリックすると写真が拡大表示される。
2. 捕獲時の情報や見回り記録がボタン操作で、簡単にできる。
3. 捕獲実績報告に必要な帳票をボタン1つで、作成できる。
4. 日付指定した範囲で、獣種毎に捕獲場所、頭数を地図上に色分け表示をし、捕獲数が多いエリアをイメージ表示をする。

クラウドの特徴として

- 関係者が持つ情報をインターネット上で共有／利活用。対策の運用をバックアップ。
- クラウドサービスのポイントは地図上の積極活用。山中での位置把握に効果を発揮。
- 貴重な現場の情報を有効活用して、対策活動を効率化。
- 日々発生する様々な情報をクラウドに蓄積。豚コレラ対策でも有効。
- 「いつでも、どこでも」利点を生かし、対策を効率化。

このように、非常に有効な手段だと思いますが、場所が、山の中であることや、最終的には、人の手が必要になるので、人員の配置や人数をどのように確保するのか、また、データ処理の機材等の管理も大変な作業になると思うので、鳥獣の被害が多い本市としては、非常に有効な手段だと思いますが、一番の課題は「人」ではないかと思いました。

令和元年 8月 30日

松本市議会議長 村上幸雄様

委員 澤田佐久子